

自然教育園におけるシラミバエについて

加 納 六 郎 *

Report of Hippoboscid Flies Collected in the Institute for Nature Study,
National Science Museum

Rokuro Kano *

私が科学博物館で蠅類の研究をしている関係で、自然教育園にお願いして、シラミバエを採集していただいた。自然教育園では、カラスの調査中なので、シラミバエの宿主は、大部分がハシブトガラスであったが、他にキビタキ、オオタカ各1羽及びヒトに付着したものもあった。1998年11月3日から1999年12月25日までに得られたシラミバエについて報告する。これらのシラミバエの採集者は、教育実習中のものは浜崎洋子さんで、その他はすべて武藤幹生氏と藤村仁氏である。種の同定は、佐賀医科大学微生物学教室の茂木幹義博士にお願いした。その結果、これまでに得られたシラミバエは、すべてアオバトシラミバエ *Ornithomyia avicularia aobatonis* Matsumura, 1905 で、雄10匹、雌21匹であった。以下にこれらのデータを記す。

採集年月日	個体数と雄雌	宿 主
1. 1998年11月3日	1 ♂	キビタキ
2. " " 4日	1 ♂	ハシブトガラス
3. 1999年3月10日	1 ♂ 1 ♀	"
4. " 7月15日	2 ♂ 1 ♀	"
5. " " 18日	1 ♂ 4 ♀	"
6. " " 25日	2 ♂ 1 ♀	"
7. " " "	1 ♀	"
8. " " 27日	2 ♀	オオタカ幼鳥
9. " 8月8日	1 ♂ 2 ♀	ハシブトガラス幼鳥
10. " " 20日	2 ♀	ハシブトガラス
11. " 9月11日	1 ♂ 4 ♀	"
12. " " 19日	1 ♀	"
13. " 10月3日	1 ♀	ヒト
14. " 12月25日	1 ♀	ハシブトガラス

* 東京医科歯科大学名誉教授・ Professor Emeritus, Tokyo Medical and Dental University
国立科学博物館館友, Museum Associate of National Science Museum

これらの標本のうち、剛毛などに変異のある3♂2♀（4番の2♂1♀, 5番の1♂, 12番の1♀）は茂木幹義博士が保管され、他の標本は、国立科学博物館動物研究部に保管してある。

シラミバエ類は、哺乳類の一部と多くのトリ類に寄生して吸血する。そしてシラミやノミのように宿主特異性がかなり厳密で、イヌにイヌシラミバエ、ウマにウマシラミバエ、ヒツジにヒツジシラミバエが寄生し、トリではツバメにツバメシラミバエ、イワツバメにイワツバメシラミバエが寄生し、トリの種によって、いろいろ異なったシラミバエが寄生している。ところが初めアオバトから採集され、松村松年博士によって、アオバトシラミバエと命名された種は、宿主の範囲が広く、いろいろなトリから採集されている。今回自然教育園で、ハシブトガラス、キビタキ、オオタカ、ヒトから採集されたものが、すべてアオバトシラミバエであったのは、アオバトシラミバエの宿主選択が比較的緩やかなことと、自然教育園内にハシブトガラスが多数生息し、そこでアオバトシラミバエが大増殖して、そこへ来た他種のトリにも付着したものと思われる。

なお1932年の日本昆虫図鑑に岸田久吉博士がカラスシラミバエを記載され、夏秋の侯ハシブトガラスに寄生するも稀品に属すと書いておられるが、T. C. Maa 博士が日本のシラミバエを再検討して、カラスシラミバエをアオバトシラミバエのシノニームとしている。

今回採集されたアオバトシラミバエの腹部には沢山のハジラミが付していた。これらのハジラミは、シラミバエの雄にも雌にも付着しており、腹部ばかりではなく胸部や脚にも付着していた。また1個体に5匹付着していたものもあり、付着したハジラミにさらに他のハジラミが付着しているものもみられた。このような現象は、増殖したハジラミが、他の宿主へ分散しようと思っても、翅をもっていないので、翅を持つシラミバエに付着して、他の宿主に移動するためと思われる。このようなことはダニ類に多くみられ、カやハエに付着して移動する。

なおハジラミの種名については、専門家であるニュージーランド博物館の Ricardo L. Palma 博士に同定を依頼し、*Brueelia mollii* Ansari, 1957 カラスハジラミ（新称）と同定された。この種は現在私の調べた範囲では、日本からの記録は無く、日本新記録の可能性が大である。

今調査においてシラミバエの同定をされた佐賀医科大学の茂木幹義博士、ハジラミの同定をされたニュージーランド博物館の Ricardo L. Palma 博士、採集に協力いただいた自然教育園の久居宣夫氏、武藤幹生氏、藤村仁氏、山崎洋子さん、国立科学博物館分館の渡辺芳美さん、写真を撮影して下さった国立科学博物館動物研究部の篠原明彦博士に深謝致します。

参 考 文 献

1. 松村松年 (1905) アオバトシラミバエ, 日本千虫図鑑 2:119 (原記載) .
2. 岸田久吉 (1932) カラスシラミバエ, 日本昆虫図鑑: 246.
3. Maa, T. C. (1967) A synopsis of Diptera Pupipara of Japan. Pacific Insects 9:724-760.
4. Maa, T. C. (1969) A revised checklist and concise host index of Hippoboscidae. Pacific Insects Monograph 20:261-299.
5. Mogi, M. (1975) A newspecies of *Lipoptena* (Diptera, Hippoboscidae) from the Japanese deer. Kontyu 43:387-392.
6. Mogi, M. (1977) Notes on Hippoboscidae (Diptera) from the Ryukyu with description of new *Icosta* species. Kontyu 45:395-398.



図1 アオバトシラミバエの雄

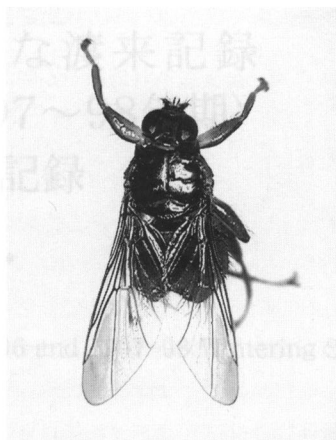


図2 アオバトシラミバエの雌

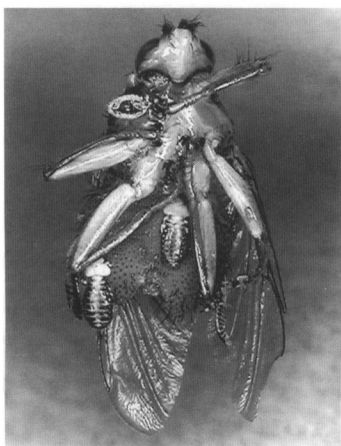


図3 アオバトシラミバエに5匹のハジラミが付着している

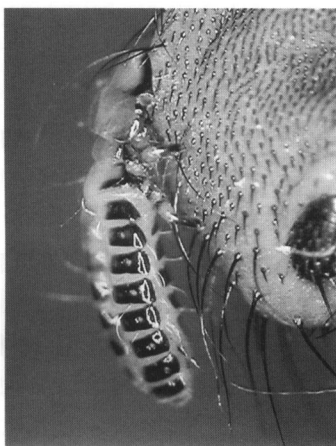


図4 アオバトシラミバエの腹部に付着したハジラミ

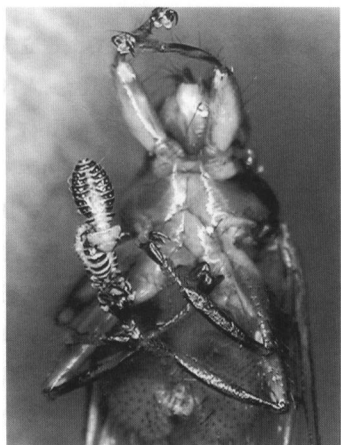


図5 アオバトシラミバエに付着したハジラミに付着したハジラミ



図6 同左拡大写真